

もしもの時に備えよう「こんなときどうする？」

奈良教育大学 英語教育専修

森本 珠美怜

1. 単元名

もしもの時に備えよう「こんなときどうする？」

2. 単元の目標

○過去の震災の写真や動画から震災の危険性について理解し、危険予測することができる。

(知識・技能)

○震災発生後、どのような行動をとるべきかを判断し、自分自身の環境に置き換えて考えることができる。

(思考・判断・表現)

○被害を防ぐ、減らすために自分ができることを考え、行動しようとしている。

(主体的に取り組む態度)

3. 単元について

①教材観

本実践は、2011年に発生した東日本大震災から、防災について考える。南海トラフ巨大地震が起これと予想されているにもかかわらず関西で暮らす子どもたちは、地震に対する危機感がまだ薄いのではないかと感じられる。本実践を通して東日本大震災の悲惨さを伝え、南海トラフ巨大地震が発生するという予想から、子どもたちに当事者意識を持たせることを目指す。

東日本大震災では、多くの方が自宅に残された親を探しに行き亡くなったり、学校にいた子どもを迎えに行き亡くなったりしたと伺った。東北地方では「津波てんでんこ」という言葉を誰もが知っている。「津波てんでんこ」とは、津波が来たら、周りをかまうより自分の命を守るためにすぐに高台に上れ、という意味である。家族も逃げていると信じ、このようにまずは自らの命を守ることが重要である。

現在、地域での避難訓練、学校での避難訓練は行われているが、実際に地震が発生するときにはどこにいるかはわからない。実際に東日本大震災では、家族はすでに自分で避難しているにも関わらず、職場から避難した方は、その家族のことが心配で家に探しに戻りそのまま津波に飲まれて亡くなったそうだ。他にも、学校から避難した子どもは全員助かったにも関わらず、親が迎えに来て引き取られた子どもが亡くなったりもしたと伺った。また、海岸線から2キロ離れていた気仙小学校は地域の避難所に指定されていた。しかし、実際は小学校の校舎を飲み込むほどの波がきた。しかし先生方の判断で裏山に避難し、全員が助かったそうだ。このように、家族でのいざというときの情報共有ができていなかったり、ハザードマップの予想を超えた災害が起こったりすることがある。また、

「津波てんでんこ」という言葉を理解していても、「まさか自分にはそんなことは起こらないだろう」とどこか他人事になっている人がいるのではないかと考える。もしもの時のために、普段から家族で情報共有を行い、また様々な状況で危険予測を行い、自分の身を自分で守ることのできる判断力を身につけさせたい。また、実際に自分の通学路や自宅の部屋、家から、通学路からの避難経路を確認し「本当にこれで自分たちの命を守ることができるのか」と批判的に考える力を身につけさせたい。

②指導観

指導に当たっては、まず地震の悲惨さを知ることから始める。導入では実際の写真や映像で地震について知り、実際に被災された方からのインタビュー内容を紹介する。インタビューから地震の悲惨さ、被災された方の想いを知り、また南海トラフ巨大地震では東日本大震災よりも大きい被害が予想されていることから、同じ被害が身近に起こりうることだと気づかせる。震災直後の映像で、どのような被害が起こっていたか、またそのような被害を防ぐにはどうすればよいかを考える。ここでは教師の話し方が重要だと感じる。ここで子どもたちの意識付けを行いたい行いたい。

活動は大きく2つある。1つは、各自の通学路で危険予測を行う。普段は教室からの避難訓練を行っていると考えられるが、自分と友達しかいない通学路ではどのような危険が潜んでいるのか、地震が起こった後どのような行動をとり、どの避難経路を通して避難をすればよいか考えさせる。このときに、今のままの通学路で、今のままの避難経路で本当に命を守ることができるのかをグループで話し合う。気づいた問題点は、どうすれば解決できるかグループで考える。

2つ目は、子どもたちの家の、家族で食事をしている部屋の間取りから、どのような危険が潜んでいるか考えさせる。学校の危険予測と違い、グループではなく完全に個人での活動となる。ここで自分の家の危険予測を行うことで危険をより身近に考えることができるのではないかと考える。自宅の危険予測を行うと同時に、その危険を取り除くにはどうすればよいかを考える。また、地震の起こった後の行動についても考える。そのような震災後の行動も合わせ、最後は「わたしの防災計画」と称し、地震などの災害に対して防災計画を立てる。

③ ESD の視点

育みたい能力・態度：未来像を予想して計画を立てる力・批判的に考える力

今回の学習は地震に焦点を当てている。東日本大震災から、よりよい未来を予測、計画することが必要である。自然災害はいつどこで起こるかはわからないので、日ごろからいつか起こる危険のために備えておく必要がある。また、防災についての正しい知識を得ることはもちろん、その知識を自分の目で見たと比較したり批判的に考えたりして、本当に自分の命を守ることができるかを考える。またそこから、よりよい解決策や防災計画を考える必要もある。

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に取り組む態度
<p>①写真や動画から、震災の危険性について理解している。</p> <p>②東日本大震災の知識から危険予測をすることができている。</p>	<p>①危険予測から、災害発生後どのような行動をとればよいか判断している。</p> <p>②震災発生後の行動について、自分自身の環境に置き換えて考えている。</p>	<p>①被害を防ぐ、減らすために自分ができることを積極的に考えている。</p>

5. 展開の概要（全8時間）

	学習活動	学習の支援、指導上の留意点	評価
第一次	<p>●東日本大震災について知る。</p> <p>●実際に被災された方のインタビュー内容を共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 写真や当時のニュースの録画などをスクリーンに映し、東日本大震災の概要や被害について説明する。 地震でどのような被害があるかを伝える。子どもたちに危機感を持たせる。 津波で家族を亡くした生徒などに注意する。無理して見せない。 陸前高田市で行ったインタビュー内容を児童に共有する。 子どもたちの意識を高めたい。 自分の身は自分で守らねばならないことに気づく。 	<p>写真や動画から、震災の危険性について理解している。(知識・技能)</p>
第二次	<p>●写真や動画から、地震発生時の危険について考え、発表する。</p> <p>【予想される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 背の高い家具が倒れてきていた。 津波がきたら高いところに逃げなければならない。 家がたくさんつぶれていた。がれきの下に取り残されるかもしれない。 <p>●他のグループの気づきと自分たちのグループの気づきを比べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災や、阪神淡路大震災の写真や動画を用いる。 どのような危険があったかプリントにメモし、全体で発表する。 意外な考えに対する感想などを述べる。 似ている、同じ考えは特に気を付けなければならない点として考える。 	

<p>第三次 ・第四次</p>	<p>●実際に自分たちの通学路で危険予測を行う。</p> <p>【例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック塀に囲まれた道がある。 ・避難場所への道がわからない ・道が細く、何かが倒れると通れなくなる。 ・川沿いに防波堤があった。 <p>●その場所で危険を回避するにはどのようにすればよいか、同じ通学路を使う児童とグループになり、話し合う。</p> <p>【予想される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険場所から逃げる。 ・近くの空き地にまずは非難する ・事前に避難経路を確認する <p>●第二次でのグループで、各自の通学路での危険や対策について、またその場所からの避難の仕方について考える。また、本当に示された避難経路から無事に避難できるかを考える。</p> <p>【予想される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難経路の途中、道が細くて危険 ・車が多い場所がある。信号機が壊れた場合、通行できない可能性がある。 ・ほかの通学路でも同じような危険が挙げられている。 <p>●同じ通学路のグループに戻り、グループごとに、通学路の危険、危険回避の仕方、避難の仕方について発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一週間期間をとり、自分の通学路で危険予備を行う。 ・実際に現場を見ることで、どんな危険があるか考え、メモをとる。 ・地震への対策がされているものもメモを取る。 ・地図を配布し、メモのポイントにしるしをつける。 <ul style="list-style-type: none"> ・通学路で見つけた危険のメモを用いて、グループ内で意見を出し合う。 ・その危険を回避するためには、事前にどのような対策を取ればよいのかも考える。 ・できるだけ児童中心の話し合いになるよう、教員は机間指導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・避難中に通る場所に注目させる。 ・実際に震災が起こることを想定し、できるだけ具体的に考える。(時間、避難する人数など) ・その場所について話し合った項目を画用紙にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練で、学内の避難経路は確認しているはずであるが、他の場所で災害が起こっても対応する必要があることを伝える。 ・さらに、通学中は身近に大人がいない可能背 	<p>東日本大震災の知識から危険予測をすることができている。(知識・技能)</p> <p>危険予測から、災害発生後どのような行動をとればよいか判断している。(思考・判断・表現)</p>
---------------------	--	---	--

		<p>もあるので、自分で判断が必要であることに気付かせる。</p>	
第五次・第六次	<ul style="list-style-type: none"> ●自宅の、食事をしている部屋の危険性について考える。 ●自分の家での危険性をグループ内で発表する。似ている点や違った点をメモする。 ●食事をしている部屋での被害を防ぐためには何を変更すればよいか、災害が起こってしまった場合はどうすればよいかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ宿題として書いてきた自宅の部屋の図から、地震が発生した場合どのような状態になるのか考え、図に書き加える。 ・地震への対策がされているものがあるか自分でチェックし、何かあるか家族の人に確認させる ・対策について子ども同士でアドバイスしあえるとよい。 ・家具の場所を移動させる、耐震シールを貼るなど具体的に考えさせる。 ・個人で考え、その後ペアで共有し一緒に考える。 	<p>東日本大震災の知識から危険予測をすることができている。(知識・技能)</p> <p>危険予測から、災害発生後どのような行動をとればよいか判断している。(思考・判断・表現)</p>
第七次・第八次	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の防災計画を作る。 ●発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が起こる前にとる行動、起こった後にとる行動に分けて考える。 ・クラス全体の前で発表する。 ・可能であれば、参観日で発表会を行えると保護者への意識付けにもなるように感じる。 	<p>震災発生後の行動について、自分自身の環境に置き換えて考えている。(思考・判断・表現)</p> <p>被害を防ぐ、減らすために自分ができることを積極的に考えている。(主体的に取り組む態度)</p>